



漁師の仕事を伝える動画制作  
加工場を新設し、事業拡大を図る



8月20日、市文化会館で鹿屋市漁業協同組合が制作した動画の試写会が行われました。「つむぐ人」とタイトルが付けられた約20分の動画は、漁師の仕事内容やかのやカンパチの認知度向上を目的に制作されたもの。動画は組合ホームページで視聴できるほか、今後同組合が行う予定である市内学校への出前授業での活用を検討しています。また、翌日には新設する水産物加工場の起工式を行い、生産量がこれまでの約2倍に増えることで事業拡大に期待が高まります。新加工場は令和4年9月完成予定です。



東京。パラリンピックの  
聖火を展示



8月13日・16日、市役所1階壁画前にて、県が採火した東京2020パラリンピック競技大会聖火がランタンに灯して展示されました。8月12日に県庁で行われた採火式では、鉄砲伝来の地である鹿児島県の歴史性が感じられるように、種子島火縄銃保存会を中心に、火打ち石での採火と火縄銃の試射が実施され、印象的な採火式となりました。

工場を増設し  
地元雇用に貢献



8月18日、株式会社サクラクレパス鹿児島工場と市との立地協定調印式が行われました。これは、今後国内外のペンの需要拡大が見込まれる同社が工場を増設することに伴い行われたもの。久木山元成代表取締役は「地元雇用に貢献し、地域経済の発展に寄与できるよう頑張りたい」と意気込みを語りました。新工場は来年6月に操業開始を予定しています。

安全面を考慮して  
春日神社鳥居を改築



9月5日、春日神社(打馬1丁目)で、鳥居の改築に伴う神事が行われました。同神社の鳥居は経年劣化により傾倒などの危険性があるため数年前から建て替えを計画。工事は今年5月から着工し、4か月で完成しました。打馬町内会の池崎淑夫会長は「神社周辺は通学路でもあり、子どもたちも集う場所なのでより安全になり良かった」と話しました。

窓口手数料の支払いに  
キャッシュレス導入



9月1日から市役所本庁1階窓口で、住民票等の証明書発行などの手数料の支払いに、キャッシュレス決済のサービスが利用できるようになりました。決済できる手数料は、市民課と税務課窓口で取り扱う全ての手数料で、モバイル決済アプリPayPayにより支払いができます。今後も支払いができる窓口や料金、サービスなどを増やしていく予定です。

女性の視点から行う  
生活支援



8月27日、国際ソロプチミスト鹿屋から生理用品が寄附されました。同団体は女性や女性の生活向上を目指して活動しており、コロナ禍で困っている女性のために役立ててほしいとの思いから寄附されたもの。中野恵理子会長は「コロナ禍が収まるまで継続的に寄附をしていきたい」と話しました。これらは市内小・中学校を通じて、児童・生徒に届けられます。

柔道県代表として  
全国で戦う



8月20日、鹿屋東中学校柔道部の選手と関係者が市役所を訪れました。同部は7月に行われた「令和3年度鹿児島県中学校総合体育大会」において個人戦各階級で優勝し、8月に群馬県で開催された全国大会に出場。鶴ヶ崎裕将主将(3年)は「鹿児島県の代表として、悔いのない試合ができるよう頑張りたい」と大会の抱負を語りました。

鹿児島県初!  
全国の舞台で最優秀賞



9月6日、市内の中央消防署で「第44回全国消防職員意見発表会」の表彰式が行われました。学童期から心肺蘇生法を教育する必要性を訴えるテーマで発表を行った南村亮消防副士長は、鹿児島県では初となる最優秀賞を受賞し、「誰もが有事の際に心肺蘇生法を行える人(バイスタンダー)となる社会を目指したい」と話しました。

寄附金でコロナ  
感染対策を支援



9月2日、鹿屋上下水道工事協同組合の役員3人が市役所を訪れました。これは、同組合が収束の見えない新型コロナウイルス感染症に関する対策を支援するため、市に寄附金を贈呈したものです。赤瀬川威理事長は「苦勞されている人や企業も多い中、地元へ貢献したいという想いで発案した。コロナ対策を支援したい」と語りました。

子どもたちに地元の  
おいしい黒豚を



8月31日、鹿児島きもつき農業協同組合と南州農機株式会社から学校給食食材の黒豚約750kgが提供されました。これは、「どっさい市場(笠之原町)」「黒豚の丘(浜田町)」オープンのお礼と地域貢献の一環として贈呈されたもの。提供いただいた黒豚は、9月から10月にかけて市内全ての小・中学校で給食食材として使われる予定です。

最高の仲間と最高の  
思い出を作った夏



8月23日、中学生ビーチバレーボールチーム「Monk+」の選手らが市役所を訪れました。これは、同チームが7・8月に開催された県のビーチバレーボール大会で優勝したことによるもの。8月の全国大会は中止となったものの、上別府凛一主将(上小原中3年)は「バレーを通じて知り合った色々な中学校の仲間と出場でき、最高の思い出になった」と喜びを語りました。